

通学区域制の見直しに係る 9 月県議会での主な意見

本会議（代表・一般質問）

発言要旨
○（通学区域制見直し） ・制度が激変すれば、生徒や保護者、中学校の進路指導に大きな混乱を招くことが危惧される。 ・中学受検を検討する小学生にも学区撤廃は大きな影響を与えるため、方針確定後、移行期間が数年は必要。その間に課題への対応や高校の魅力化を推進すべき。 ・現行制度を前提としてきた現中学生にとって、急激な制度変更はかえって公平さを欠く。今後、移行期間や見直し方法をしっかり検討してほしい。（徳島県議会自由民主党 岡田議員） ・令和 2 年度入試から 3 年度入試にかけて行った見直しによる効果や影響をさらに詳しく分析して、今回の議論に生かすことが大事。 ・子どもたちの意見を聞くことが必須。現場の教員の意見も幅広く聞いてほしい。 ・学区撤廃により、新たな問題が生じることを懸念する声もあることから、もう 1、2 段階経て、大きな問題が起こらない状況下で学区を撤廃することがベター。 ・焦りすぎて新たな問題を生むことのないように進めてもらいたい。（公明党徳島県議団 古川議員） ○（高校再編、特色化・魅力化） ・学区撤廃を見据え、中学生が主体的に学校を選択できるよう、地域と連携した一層の取組が不可欠。早急に地域の特色を生かした魅力ある高校づくりに組織的に取り組み、徳島ならではの教育を推進してほしい。（徳島県議会自由民主党 岡田議員） ・学校間の施設環境の差は、今後、生徒募集にも大きな影響を及ぼし、地域の衰退にもつながるのではないかと懸念。 ・生徒数が大きく減少する中、今後、普通科高校の再編統合は避けて通れないと認識。高校再編等に併せて校舎の建て替えも検討すべき。 ・通学区域制の議論に併せ、「県立高校の在り方」も議論して方向性を示すべき。50 年先を見据えた多様な人材を育成する公立高校の在り方を検討してほしい。（自由民主党県民会議 井川議員）

委員会（文教厚生委員会）

発言要旨
○（通学区域制見直し） ・少子化の影響で塾のない地域がある。学区撤廃にあたっては、地域ごとの教育環境に差があることを踏まえた議論が必要。（重清委員） ・中学浪人が出ないように、入試制度の見直しや私立受検の状況も含めた検討が必要。入試制度の見直しや高校の魅力化が進んだ後、学区を撤廃した方が良い。（眞貝委員） ・中学受検を検討する児童や保護者にも影響があることを踏まえると、学区撤廃までの周知期間を十分確保する必要がある。（眞貝委員） ・公平な入試制度の実現に向け、学区撤廃の時期や移行方法等の議論をしっかりとってもらいたい。（近藤委員） ・制度を急激に変えると、いろいろな課題も想定されるが、早めの学区撤廃に向け、前向きに議論してほしい。（坂口委員） ○（高校再編、特色化・魅力化） ・高校の魅力化を推進し、県外の生徒にも選ばれる学校づくりを推進してほしい。（眞貝委員） ・子どもの数が減少する中、どうやって地域の高校を維持するかは地域全体の課題。スピード感を持って高校の特色化・魅力化を進める必要がある。（井下委員） ・少子化及び校舎の老朽化が進む中、再編統合や校舎の建て替えは不可避。（井下委員） ・私立や市町村立の学校にして高校の特色化・魅力化を進める方法も考えられる。（井下委員） ・遠距離通学者増加の対応策として、寮の整備を進める必要があるのではないか。（坂口委員）